

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地元間伐材と古材を利用した活動拠点の整備を通じた、林業、環境、建築、防災に関する課題解決と教育プログラムの実践～木材の加工と建て方
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 フォレスト工房もくり 飯山市大字豊田1105
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,174,797 円 (うち支援金: 3,211,000 円)

事業内容

フォレスト工房もくりでは、荒廃した田畑や人工林を整備する「里山保全事業」と里山の価値の再発見や都市農村交流をすすめる「里山交流事業」を行っています。本プロジェクトは、里山と拠点を整備しながら、森を使う知恵や知識、木を活かす感性を学びます。同時に、チェーンソー講習(伐木造材講習)を通じて、昨今の増加・甚大化する自然災害の要因である森林の管理の課題を知り、平時に手つかずになってしまった人工林を間伐作業の練習の場として活用することで、森林整備・拠点整備します。緊急時の倒木があった際に、率先して地域を支え復旧活動もできる人材の育成を目指しています。



【講習の様子】

【目標・ねらい】

- ① 関係人口 300名/年(本事業において)
- ② 年30名伐木造材スキルを持った担い手を確保
- ③ 森林資源の活用を担う学生の学び場
- ④ 地域と来訪者による人工林の環境保全

事業効果

今年度は、2年目の取組で昨年度伐倒し搬出した木材の加工を行い、小屋を組み立てる所までを目標としました。大工棟梁の指導を受けながら、在来工法や木材の加工に挑戦し、墨付け、仕口加工、建て方、屋根工事を体験しました。かつては人の手仕事によって行われていた建築の文化を体験することで地域の景観が地域の材で出来ていたことを、体験を通して学ぶことができました。延べ93名が参加しました。講習では、里山から木を伐り出すためにチェーンソーを安全に操作できる人材を延べ53名輩出し、計画以上に確保されました。講習をきっかけに、森への関心や管理する重要性、安全に対する意識が醸成されました。本事業で、継続的な交流と新たな関係人口が、計146名創出されました。

※自己評価 【A】

【理由】

継続した取り組みで、来場者数100名を超えることができた。また、木材加工や建て方など、普段できない体験を学生や子供たちに伝える機会ができ、森や木(地域材)への関心を高めることに繋がった。

今後の取り組み

本取組が、今後消費や木材利用の意識を変える重要な活動であることが、関係した参加者、事業者、地域の方にも伝わりはじめ、森へ関わる機会を継続してつくっていくことの重要性を実感した。災害時に課題となってしまう管理されていない森が、講習やイベントを通じて整備し続けることで、少しずつ管理された森、交流の拠点に変わっていくことも確認でき、行政とも連携してこの取り組み(仕組み)を伝えていながら、他地域でも展開することを考えたい。次年度は、内部の仕上げによって活動拠点としても強化していきたい。